



グローバルCOEプログラム

境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界

2013年度・後期
道民カレッジ連携講座

土曜市民セミナー

共
催



北海道大学スラブ研究センター

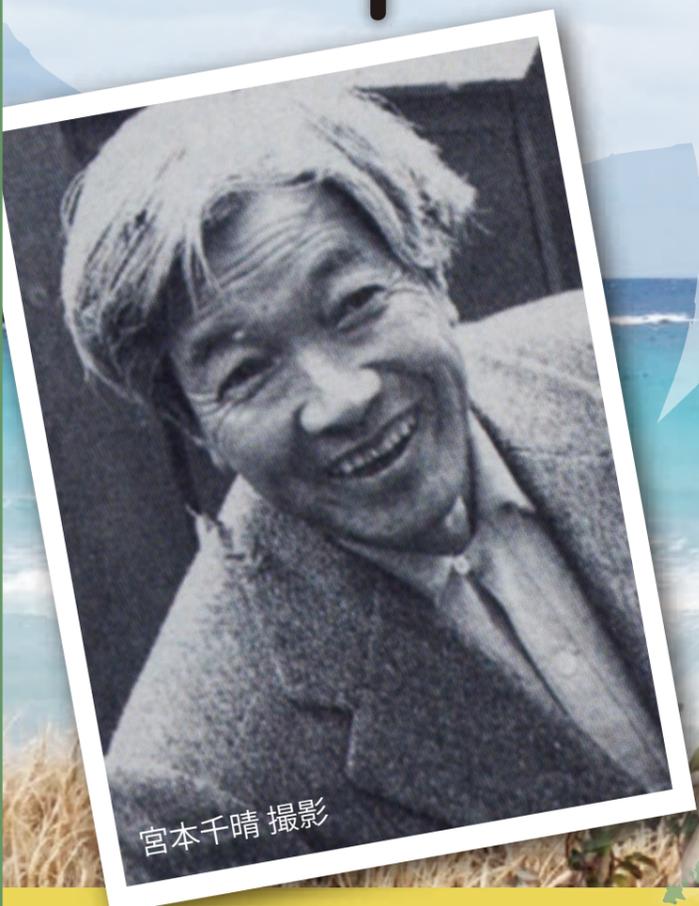


北海道大学総合博物館

宮本常一と

歩く

国境の島じま



宮本千晴 撮影

9月21日(土) 13:30-15:00
北海道大学総合博物館1階
「知の交流」コーナー

入場無料 | 申込不要 | 定員60名

*定員を超えますと立ち見となる場合がございます。

講師

安溪 遊地 (山口県立大学)
安溪 貴子 (山口大学)

生涯に16万キロを歩いた民俗学者・宮本常一(1907-1981)は、「周防大島の百姓」としての人的魅力で、出会う人に忘れがたい記憶を残した。彼は渋沢敬三の指導と庇護のもと、対馬や五島のような国境の島々に鎌倉時代の文化が残ることを見だし、離島振興法によって人々の幸せを願う社会運動家でもあった。生前の印象的な出会い、アサ子夫人との交流などを通して、宮本常一が国境にかけた夢を熱く語る。

本セミナーに関するお問い合わせ先

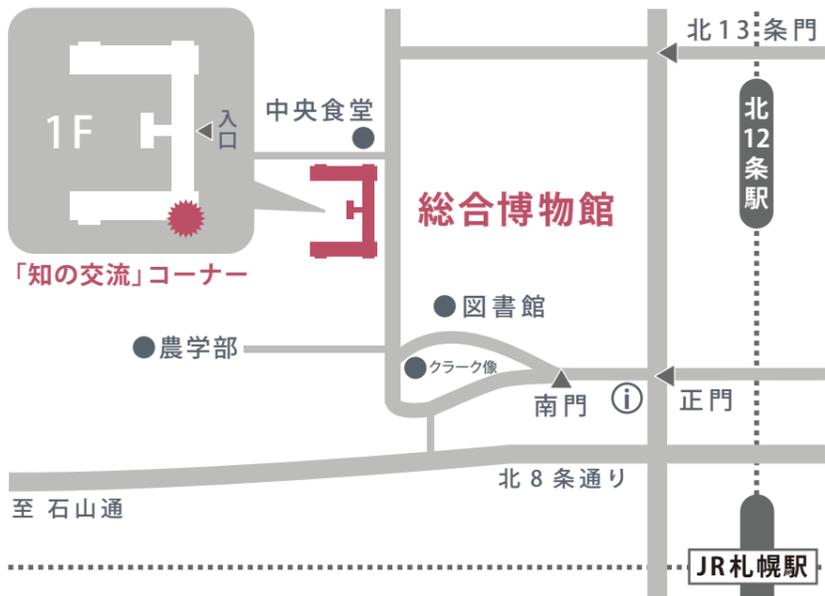


北海道大学スラブ研究センター「境界研究の拠点形成」事務局
TEL: 011-706-2380 / 4809 E-mail: gcoe-jimu@slav.hokudai.ac.jp
http://borderstudies.jp

北海道大学総合博物館



〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
TEL: 011-706-2658 http://www.museum.hokudai.ac.jp/



関連
展示

GCOE 第9期展示「境界研究－日本のパイオニアたち」展

- 会期 part.1 | 6月1日(土)～8月25日(日) 香月泰男(画家)、工藤信彦(詩人)
- part.2 | 9月1日(日)～10月27日(日) 秋野豊(国際政治学者)、宮本常一(民俗学者)
- 会場 北海道大学総合博物館2階 GCOE 展示ブース